

丸尾三兄弟展
GⅢ-Vol.111

SUPER MARUO BROTHERS

題字：日比野克彦

熊本市現代美術館

ギャラリーⅢ

2016.7.16(土)→9.11(日)

時間 10:00-20:00 火曜休

入場無料



2016年6月丸尾焼にて撮影

2016年4月、熊本・大分地方を襲った未曾有の大地震は、多くの建物や人々の生活に甚大なダメージを与え、今日現在も復旧に向けた活動が続いています。そのような中、熊本市現代美術館ギャラリーⅢでは、111回目の企画として「00(マルオ)の食卓」展を開催します。

本震の3日後、天草の丸尾三兄弟から、お見舞いと同時に、予定していた展覧会の内容変更を相談する電話がありました。地震の被害で、多くの家庭で器が割れ、人々は避難所や車で寝泊まりし、支援物資や炊き出しを紙皿で食べていた頃です。

「ギャラリーに來た人が、無料で器を持って帰れるような展示にしたい」

お気に入りの器で、美味しい食事を、大好きな人達と一緒に食べる。そんなごく当たり前のことが、どれだけ尊いことか、私たちは震災を通して改めて実感しました。陶芸は、私たちの暮らしに最も身近なアートの一つです。丸尾三兄弟の天草での幅広い活動や、日々、増え続けていく食卓の写真を通して、その向こうにある「日常の復興」に思いを馳せていただければ幸いです。

(坂本顕子 / 熊本市現代美術館主任学芸員)

関連イベント

●アーティスト・トーク

丸尾三兄弟を幼少時から知るアーティスト・日比野克彦とともに、それぞれの制作や活動について語ります。

日時：2016年7月22日(金)18:00から

場所：熊本市現代美術館ホームギャラリー

出演：丸尾三兄弟、日比野克彦



いつもどこかの誰かの食卓の為に器を作っている。
ショップで若しくは展示会で実際に使ってくれる方々とお会いすることはある。
けど、その先。
一体それがどういう風に使われているかを僕は知らない。
誰がどこでどうやって？
僕らが作り、誰かの食卓に送り込んだ器たちの風景を写真に撮って見せて欲しい。
その代わり器は一人一点、プレゼントするから。
I give you a plate
You give me a photo

僕らが作った器が窯から出て、会場にたどり着き、器があなたの食卓で使われた時。
1人で？友人と？カップル？それとも家族？
きっと熊本を襲った未曾有の大震災の後の、それぞれの食卓の今が見えてくるはず。

会場から器が消えて
誰かのどこかの食卓の写真が会場を埋め尽くしたら…。
それは見てみたいね。
頑張っ作ろーっと思います。

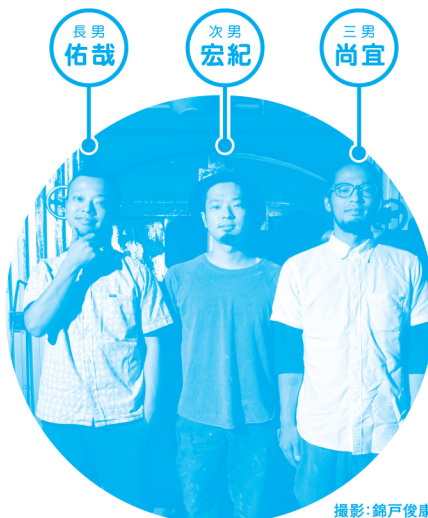
丸尾三兄弟こと
金澤
佑哉 宏紀 尚宜

丸尾三兄弟

天草・本渡の窯元「丸尾焼」の金澤佑哉（かなざわ・ゆうや／長男、1982年生）、宏紀（ひろき／次男、1987年生）、尚宜（なおき／三男、1989年生）の若手陶芸家ユニット。「天草大陶磁器展」の一環で、空き店舗を活用し若手陶芸家やアーティストの展示を行う「アマクサローネ」を立ち上げ、様々なアート・イベントの企画などを通して、陶磁器の島・天草を全国に発信する。

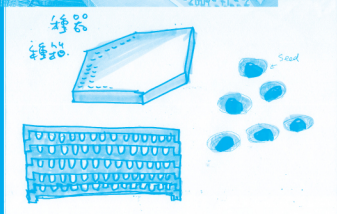
丸尾焼（住所：熊本県天草市北原町 3-10 電話：0969-23-4560）

弘化2年(1865年)に天草・本渡で創業。現在は五代金澤一宏が継承し、丸尾三兄弟は次代にあたる。天草地方は、全国トップクラスの陶磁器原料「天草陶石」の産地であり、「天草陶磁器」は国の伝統的工芸品の指定を受ける。島内には25以上の窯元が開業し、丸尾焼はそのリーダー的存在である。



撮影：錦戸俊康

2007年 天草で《種器》を制作する日比野



日比野克彦

明後日朝顔プロジェクト in 熊本10周年記念展

同時開催

期日：2016年7月16日(土)～9月18日(日)

場所：熊本市現代美術館井手宣通記念ギャラリー[入場無料]

会期中、隣接する井手ギャラリーでは、日比野克彦の「明後日朝顔プロジェクト」の熊本での開催10周年を記念して、「HIGO BY HIBINO」展(2007年)の際に日比野が熊本の伝統工芸とコラボレーションして制作した《種象眼》(肥後象眼)、《種器》(天草陶磁器)などを展示します。「明後日朝顔プロジェクト」は、天草でも継続開催されており、丸尾三兄弟も2012年に「明後日朝顔キャラバン」として、日本各地を車で縦断しワークショップを行いました。その模様も併せて紹介致します。